

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1290200052
法人名	株式会社マウントバード
事業所名	グループホーム はなみの家
所在地	〒262-0004 千葉県千葉市花見川区大日町1386-2 (電話) 043-309-6545

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年12月17日
評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(20年12月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年1月1日	利用定員数計	18 人
ユニット数	2 ユニット	1Fユニット	常勤6名 非常勤9名 常勤換算8.4人
職員数	17 人	2Fユニット	常勤6名 非常勤2名 常勤換算6.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費20,000+諸経費+実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合償却の有無	有り	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	58 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	増田医院 ゆうクリニック 医療法人社団郁栄会 ベイデンタルクリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は4つのグループホームを運営し、はなみの家は一番新しい。いろいろ新しいことに挑戦しているが、最も力を入れているのは地域との交流で、地元小学校の課外活動で入居者の一人が将棋を教え、それがきっかけで子どもたちもホームによく遊びに来るようになった。敷地内の広い畑を地域に開放し、ホームと近隣住民がいっしょに野菜づくりをしている。入居者を出来るだけ外出に誘い、地域住民とあいさつを交わす機会を増やしている。「鍵をかけない」施設づくりにも踏み切っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての外部評価ということもあって、今回はホーム長と2ユニットの管理者らトップ中心に自己評価票がつけられた。外部評価の意義を徹底させる意味でも、職員一人ひとりが自己評価をする「全職員参加型」になると良いと思われる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議はホームやユニットの責任者のほか入居者・家族の代表、町内会や地域住民代表などで構成し、2ヶ月に1度開いている。施設の運営、サービス、地域交流などの課題をはじめ行政への要望などを議題にし、意見交換が活発に行なわれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会が設けられ、職員も一緒に懇談できるようにしているが、開設1年目なので平成20年はまだ1度しか開けていない。施設運営に家族との交流は不可欠なので、今後の家族会の育成・強化が期待される。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携は多面的、積極的に進められている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して居心地よく、いつまでも住み続けたい施設を目指して、「ず～っと住みたい家」という言葉をホームの理念に掲げている。ほかに事業者として 顧客重視 誠実な心 個人の尊重 責任ある地域市民 チームワーク、の5つの基本理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は大書され、玄関やホールなど目に付きやすい随所に掲示されている。掲示は入居者や訪問家族も確認できる。またユニット会議や申し送り時に随時言葉にし、職員間の共有を図っている。	○	「ず～っと住みたい家」とはどんな家なのか、人によってイメージが違うと思うので、内部研修や学習会で職員一人ひとりが意見を出し合い、「ず～っと住みたい家」を具象化できるようにするとさらに良いと思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元小学校の課外活動「わくわくキャンパス」に将棋愛好家の入居者が毎週通い、子どもたちに将棋を教えている。子どもたちもホームによく遊びに来る。敷地内には広い畑があり、土いじりの好きな入居者といっしょに近隣の人が農作業をしている。入居者も外出・散歩の際には地域の人たちとあいさつを交わすなどしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成20年1月に開設したばかりなので外部評価も今初めて受けた。自己評価はホーム長と各ユニットの管理者がこの1年間の活動を検証し合いながら作成したが、開設間もないこともあって、現場スタッフが自己評価に直接参加するゆとりは持てなかった。	○	自己評価の各項目は「施設に何が求められているか」を明示しており、職員一人ひとりがしっかり目を通すだけで自覚と気づきが得られることもある。次回は「全職員参加型」で行なわれることが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホームやユニットの責任者のほか入居者・家族の代表、町内会や地域住民代表などで構成し、2ヶ月に1度開いている。施設の運営、サービス、地域交流などの課題をはじめ行政への要望などについて意見交換し、改善につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の外部研修に施設職員が参加したりしているが、それ以上の交流はあまりない。	○	市町村との連携を図るためには、機会あるごとに施設の側から役所を訪ね、情報や意見交換を図るような努力が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月ごとの行事予定や連絡事項を載せた広報「はなみの家便り」を家族に送っている。また広報紙といっしょに、入居者一人ひとりの日々の様子を記した手紙にスナップ写真を添えて送っており、家族に喜ばれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際は、気づいたことや気になることを率直に話してもらうよう働きかけている。自由に意見が言えるよう、入居者の個室で話すようにしている。玄関には「ご意見箱」も置いているが、投書はほとんどない。	○	家族会が設けられ、職員も一緒に懇談できるようにしているが、施設開設1年目なので平成20年はまだ1度しか開けていない。施設運営に家族との交流は不可欠なので、家族会の育成・発展が期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職もないことはないが、できるだけダメージを与えないよう、努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修を出来るだけ受けるよう促し、また内部研修については、同じ法人の4つのグループホーム共通の講師が担当して、実施している。しかし、職員の育成のためには、さらに何が出来るか検討する余地があると思われる。	○	一人ひとりの段階に応じた研修の実施や、勤務評価の視点からのアプローチ等、工夫することが大切だと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の「グループホーム連絡会」に参加して、他施設の訪問見学や情報交換等の交流を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に施設を見学してもらい、お茶を共にしながら話を聞くようにしている。それでも不安を感じている入居希望者・家族には日帰りの体験入居をしてもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除機を使っての毎日の床掃除と畑仕事を自分の役目と心得ている人がいたり、食事の支度を手伝う入居者もいる。職員と入居者は、日常生活を共にしながら、自然な形で支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は入居者との日常の会話を通じて、出来るだけ多くの情報をキャッチするよう努めている。また、時々居室で2人きりで話をすることもある。コミュニケーションの取りにくい人には家族からの情報を得て、意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの介護計画書を作る前に、居室担当職員がモニタリングをし、本人の希望を聞きとって記録したものをベースに、現場職員や家族と一緒に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度、介護計画の見直しを行っている。また、入居者に身体変化が見られた時はその都度見直しをし、介護計画の変更をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望でカラーリング液や洋服の購入など、個別の買い物支援を行っている。また、サークル活動を行う場所への送迎も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	約3割の入居者は以前からのかかりつけ医に受診している。しかし、残りの7割の入居者は家族からの要望もあり、ホームの協力医療機関で受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは医療連携加算を取っており、ドクターや看護師と話し合い、終末期ケアに関する指針は作られている。また、家族も終末期ケアを望んでいるが、現場職員との話し合いはできていない。		指針は作られているので、早急に全職員とも話し合い、協力体制を確立し、終末期ケアに向けた方針の共有を図ることが必要と思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を「さん」づけで呼んでいる。一人ひとりの尊厳を守るため、大勢の前ではプライバシーに触れるような話をしないことを全職員で徹底している。職員は入居者に名前を覚えてもらうため、はっきりと見えるよう全員が名札を付けている。記録等の書類は事務所で保管し、重要書類は本部で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に「入居者が主体」を全職員が認識しており、一人ひとりのペースに沿った支援を行っている。早起きの入居者は5時に起き、テーブルを拭いたり、お茶を入れたりして他の入居者の起きてくるのを待っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はそれぞれの持っている力を発揮し、出来ることを行っている。調査当日は、男性の入居者がたまご料理を作っていた。食器や箸は一人ひとり自分のもので食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームとしては一日おきの入浴支援を行っているが、入居者が希望すればいつでも入れるように用意されている。入浴拒否の入居者にも、入りたいという気持ちになってもらえるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭き、窓開け、カレンダーの日めくり、お茶入れ、配膳、下膳、食器拭き、洗濯干し、たたみなどホームでは様々な役割があり、入居者の持っている力を活かした支援を行っている。時には全入居者が大好物の回転寿司に出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の日には必ず散歩に出かけており、一人暮らしの老人宅に立ち寄りたりしている。出かけない入居者は、広いウッドデッキで日光浴をするなど、出来る限り外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時についていた暗証番号式の施錠はホーム長の強い要望ではずした。職員の見守りにより、日中は玄関、テラス、非常口、全てに鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難、消火訓練を行っている。また、職員には日勤の初期消火係、早番の通報連絡係や遅番の避難誘導係があり、毎日担当者の確認を行っている。しかし、場面を想定した訓練の実施や、近隣への協力依頼は十分とは言えない。		職員が2人体制の夜間の災害は、日頃の訓練や近隣の協力が不可欠であるため、早急に話し合い、体制を整えることが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者からの取り寄せで、栄養バランスや摂取量は確保されている。水分量はチェック表をつけ必要量の確保に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まる食堂には、クリスマスツリーや入居者と職員で作った折り紙が飾られ、季節が感じられた。また、写真を趣味にしている入居者の千葉ポートタワーのクリスマスツリーの作品も飾られていた。広いウッドデッキは温かい日にお茶を楽しんだり、日光浴をするのに格好の場所になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には大きな窓があり、明るい部屋になっている。掃除もいき届き清潔である。入居者は使い慣れた家具を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		